

シルバーハウジングに関する研究 第1報 入居者特性と入居の背景
兵庫教育大 ○菊澤康子 大阪コミュニティーワーカー専門学校 青野香織
大阪城南女短大 奥山佳代 山口雅子

目的 公営のケア付住宅シルバーハウジング（以下SHと称す）が建設され入居が開始されてから5年目になり、その供給件数も徐々に増加しつつあるが、その計画内容や運営方式は自治体ごとに様々である。その一方でSHの入居者にとっての住み心地については、未だ十分評価されているとは言えない実情にある。

以上の観点から、本報では入居者特性、住み方、設備利用、室内環境の居住性、人間関係等についての実態把握をもとに、SH入居者の日常生活における特性および入居の背景について明らかにすることを目的とした。

方法 1989-1993年にかけて関西地区の大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市、西宮市の5自治体により供給された9地区のSHの入居者およびLSAを対象に、1回-3回にわたり訪問面接聞き取り調査を行った。

結果 入居者には女性単身者が多く、持病や自覚症状のある者が各々約2割および3割見られたが、室内や屋外の移動の困難な人は現在のところ1割にも満たなかった。

入居者は、以前民間借家に住んでいたものが多く、住宅の老朽化や住環境、住宅設備、広さなどの条件の改善を求めて入居した者が多い。しかしながら、入居申込時にはSH内には特別な設備が設けられていることや、ライフサポートアドバイザー（LSA）のシステムを導入していることを知らなかった者が各々約3割および5割認められた。